



システム イベント ログ

- システム イベント ログ (1 ページ)
- 各サーバのシステム イベント ログの表示 (2 ページ)
- シャーシ内のサーバのシステム イベント ログの表示 (2 ページ)
- SEL ポリシーの設定 (2 ページ)
- システム イベント ログの1つ以上のエントリのコピー (5 ページ)
- システム イベント ログの印刷 (5 ページ)
- システム イベント ログのリフレッシュ (6 ページ)
- システム イベント ログの手動バックアップ (6 ページ)
- システム イベント ログの手動クリア (7 ページ)

システム イベント ログ

システム イベント ログ (SEL) は、NVRAM 内の CIMC に存在します。SEL は、システム正常性に関するトラブルシューティングのために使用されます。過不足電圧のインスタンス、温度イベント、ファンイベント、BIOS イベントなど、ほとんどのサーバ関連イベントが記録されます。SEL によってサポートされるイベントのタイプには、BIOS イベント、メモリユニットイベント、プロセッサイベント、およびマザーボードイベントが含まれます。

SEL ログは SEL ログ ポリシーに従って CIMC NVRAM に保存されます。SEL ログを定期的にダウンロードしてクリアすることがベストプラクティスです。SEL ファイルのサイズは約 40KB で、ファイルがいっぱいになるとそれ以上イベントを記録できません。新たなイベントを記録できるようにするには、ファイルの中身をクリアする必要があります。

SEL ポリシーを使用して、SEL をリモートサーバにバックアップできます。また、必要に応じて、バックアップ操作後に SEL をクリアすることもできます。バックアップ操作は、特定のアクションに基づいて起動するか、定期的に行われるように設定できます。SEL のバックアップやクリアは、手動で行うこともできます。

バックアップ ファイルは、自動的に生成されます。ファイル名の形式は `sel-SystemName-ChassisID-ServerID-ServerSerialNumber-Timestamp` です。

たとえば、`sel-UCS-A-ch01-serv01-QC112522939-20091121160736` という名前になります。

各サーバのシステム イベント ログの表示

手順

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

ステップ2 [機器 (Equipment)] > [シャーシ (Chassis)] > [シャーシ番号 (Chassis Number)] > [サーバ (Servers)] の順に展開します。

ステップ3 システム イベント ログを表示するサーバをクリックします。

ステップ4 [Work] ペインの [SEL Logs] タブをクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバのシステム イベント ログを取得し、イベントのリストを表示します。

シャーシ内のサーバのシステム イベント ログの表示

手順

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

ステップ2 [Equipment] タブで、[Equipment] > [Chassis] > [Chassis_Name] を展開します。

ステップ3 [Work] ペインの [SEL Logs] タブをクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバのシステム イベント ログを取得し、イベントのリストを表示します。

ステップ4 [Server] テーブルで、システム イベント ログを表示するサーバを選択します。

Cisco UCS Manager はサーバのシステム イベント ログを取得し、イベントのリストを表示します。

SEL ポリシーの設定

手順

ステップ1 [ナビゲーション]ペインで、[機器]をクリックします。

ステップ 2 [機器] ノードをクリックします。

ステップ 3 [Work] ペインの [Policies] タブをクリックします。

ステップ 4 [SEL Policy] サブタブをクリックします。

ステップ 5 (任意) [General] 領域で、[Description] フィールドにポリシーの説明を入力します。

この領域の他のフィールドは読み取り専用です。

ステップ 6 [Backup Configuration] 領域で、次のフィールドに値を入力します。

名前	説明
[プロトコル (Protocol)] フィールド	<p>リモート サーバとの通信時に使用するプロトコル。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • FTP • TFTP • SCP • ステップ • [USB A] : ファブリック インターコネクト A に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でのみ使用できません。 • [USB B] : ファブリック インターコネクト B に挿入された USB ドライブ。 このオプションは特定のシステム設定でのみ使用できません。
[Hostname] フィールド	<p>バックアップ設定が存在する場所のサーバのホスト名または IP アドレス。 IPv4 や IPv6 アドレスではなくホスト名を使用する場合、DNS サーバを設定する必要があります。 Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていないか、または DNS 管理が [ローカル (local)] に設定されている場合は、Cisco UCS Manager で DNS サーバを設定します。 Cisco UCS ドメインが Cisco UCS Central に登録されていて、DNS 管理が [グローバル (global)] に設定されている場合は、Cisco UCS Central で DNS サーバを設定します。</p> <p>(注) バックアップ ファイルの名前は、Cisco UCS によって生成されます。 名前は次の形式になります。</p> <pre>sel-system-name-chchassis-id- servblade-id-blade-serial -timestamp</pre>

名前	説明
[Remote Path] フィールド	<p>必要に応じて、リモートサーバ上のファイルの絶対パスを指定します。</p> <p>SCP を使用する場合、絶対パスは常に必要です。他のプロトコルを使用する場合は、ファイルがデフォルトのダウンロードフォルダにあれば、リモートパスを指定する必要はありません。ファイルサーバの設定方法の詳細については、システム管理者にお問い合わせください。</p>
[Backup Interval] ドロップダウンリスト	<p>自動バックアップ間の待機時間。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Never : 自動 SEL データ バックアップを実行しません。 • 1 Hour • 2 Hours • 4 時間 • 8 Hours • [24 Hours] • 1 Week • 1 Month <p>(注) システムによって自動バックアップを作成する場合は、[Action] オプションボックス内の [Timer] チェックボックスがオンになっていることを確認してください。</p>
[Format] フィールド	<p>バックアップファイルに使用する形式。次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Ascii • 2 進数
[Clear on Backup] チェックボックス	<p>オンにすると、Cisco UCSは、バックアップが完了した後に、すべてのシステム イベント ログをクリアします。</p>
[ユーザ (User)] フィールド	<p>システムがリモートサーバへのログインに使用する必要のあるユーザ名。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。</p>
[パスワード (Password)] フィールド	<p>リモートサーバのユーザ名のパスワード。プロトコルが TFTP の場合、このフィールドは適用されません。</p>

名前	説明
[Action] チェックボックス	オンにした各ボックスでは、イベントが発生したときに、システムは SEL のバックアップを作成します。 <ul style="list-style-type: none">• [Log Full] : ログが許容される最大サイズに到達。• [On Change of Association] : サーバとそのサービス プロファイルの間のアソシエーションが変化。• [On Clear] : システム イベント ログがユーザによって手動でクリア。• [Timer] : [Backup Interval] ドロップダウンリストで指定された時間間隔に到達。
[Reset Configuration] ボタン	バックグラウンドの設定情報をリセットするには、このボタンをクリックします。

ステップ7 [Save Changes]をクリックします。

システム イベント ログの1つ以上のエントリのコピー

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブで、サーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

- ステップ1 Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベントが表示されたら、マウスを使用して、システム イベント ログからコピーするエントリ（複数可）を強調表示します。
- ステップ2 **Copy** をクリックして、強調表示されたテキストをクリップボードにコピーします。
- ステップ3 強調表示されたテキストをテキスト エディタまたは他のドキュメントに貼り付けます。

システム イベント ログの印刷

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブで、サーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

- ステップ1** Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、**[Print]** をクリックします。
- ステップ2** [Print] ダイアログボックス で、次の手順を実行します。
- (任意) デフォルト プリンタ、あるいはその他の任意のフィールドまたはオプションを修正します。
 - [Print]** をクリックします。
-

システム イベント ログのリフレッシュ

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブで、サーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、**[Refresh]** をクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバのシステム イベント ログを取得し、アップデートされたイベントのリストを表示します。

システム イベント ログの手動バックアップ

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブで、サーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

始める前に

システム イベント ログ ポリシーを設定します。手動によるバックアップ操作では、システム イベント ログ ポリシーで設定されたリモート宛先を使用します。

手順

Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、**[[Backup]]** をクリックします。

Cisco UCS Manager は、SEL ポリシーで指定された場所にシステム イベント ログをバックアップします。

システム イベント ログの手動クリア

このタスクでは、サーバまたはシャーシの [SEL Logs] タブで、サーバのシステム イベント ログが表示されていることを前提にしています。

手順

Cisco UCS Manager GUI によって [SEL Logs] タブにシステム イベント ログが表示されたら、[Clear] をクリックします。

(注) SEL ポリシーの [Action] オプションボックスで [Clear] がイネーブルになっていると、この処理によって自動バックアップが実行されます。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。